

第58号 通巻11巻第3

1991年9月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎ (0775) 85-4397

〒 524-02

守山市服部町2250番地

☆ はじめに ☆

夏もいつのまにか終わり、秋風が吹く頃となりました。埋文センターのまわりでも、つくつくぼうしが競って鳴いています。さて、今回の乙頁ではすでに調査が終了している4遺跡と現在調査中の3遺跡についての調査成果を報告します。



発掘調査位置図

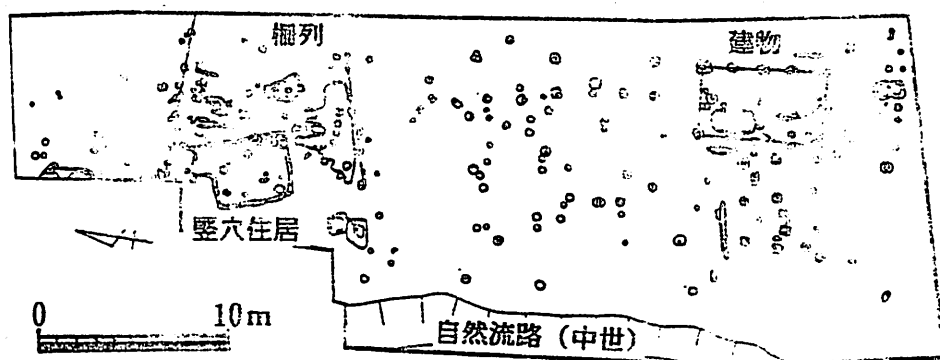
☆ 調査終了 ☆

1. 益須寺遺跡 - A地点 -

吉身町字泉海道で行っていた発掘調査は8月13日をもって終了しました。今回の調査地点では上下二層の遺構を検出しました。上層からは東西に並走する6条の小溝と南北に走る自然流路が1条、それに直径5m・深さ3mもある大きな土坑が1基みつかりました。これらの遺構は出土した土器から平安時代から中世(鎌倉・室町時代)にかけてのものと考えられます。

下層からは奈良時代頃の竪穴住居と4間×2間の掘立柱建物が1棟、それに多数の柱穴がみつかりました。竪穴住居は2.4m×4.2mの大きさで、南東隅にカードと北側に盛り出しが設けられています。竪穴住居の北側と南側には堀が作られていて、住居を囲んでいたと考えられます。

(山 畑)



益須寺遺跡 - A地点 - 遺構平面図

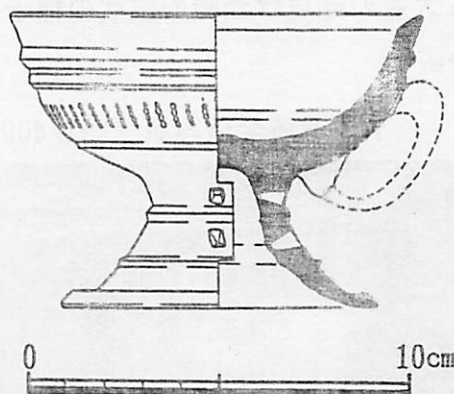
2. 吉身西遺跡

守山町字南三丁で個人住宅4件の建築に先立って、発掘調査を実施しました。その結果、江戸時代の水田が検出されました。水田は3区画あり、幅1~1.5mの畦(あぜ)も同時に検出されています。これらはほぼ南北の方向であり、現在の水田方向とは異なっています。なおこの下層からは、現在の水田区画と同じ方向を示す、鎌倉時代の細い溝がみつかりました。

(山 崎)

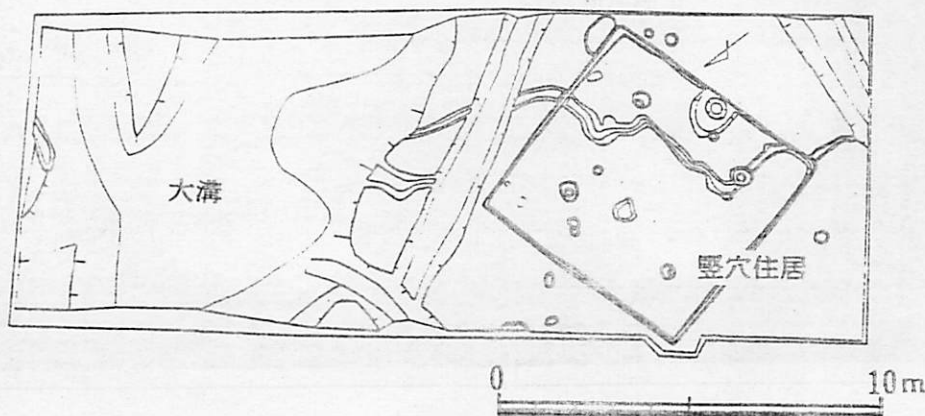
3. 古高遺跡-A地点-

古高町の市立南中学校の校舎増築工事に先立って、7月31日から8月13日までの期間で約300㎡を対象に調査を実施しました。その結果、古墳時代前期の竪穴住居1棟、溝3条、大溝1条を検出しました。竪穴住居は一辺6.2mと規模が大きく、壁際に排水用の小さい溝が、南辺中央には貯蔵用とみられる土壇^{どこう}が掘られていました。大溝は幅9m以上、深さ2.5mもあり、砂が多量に堆積していたことから、かなり激しい流れがあったことがうかがえます。溝内からは古墳時代前期の多量の土器と木製品が出土しました。このほか滑石^{かつせき}（緑色をした軟らかい石で、古墳時代には玉作りに盛んに用いられた）の玉の未製品、破損品、チップ（削りかす）が大量に見つかっていて、この付近で玉作りが行われていたことが考えられます。なお、大溝の上層からは須恵器の高杯やヒスイの玉が見つかっています。



(山 崎)

大溝出土須恵器高杯



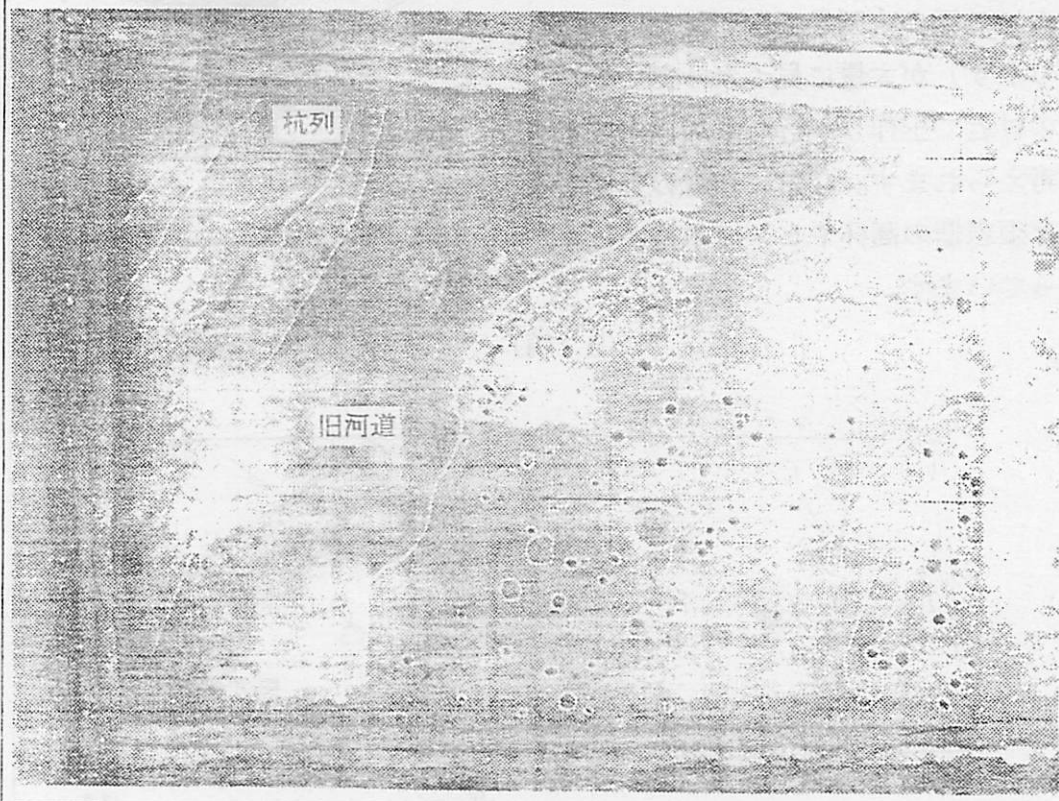
古高遺跡-A地点-遺構平面図

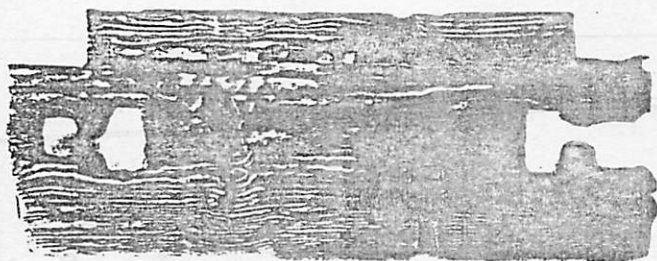
4. ^{しもなが}下長遺跡

4月から行ってきた下長遺跡の調査も7月末までに終了しました。今回の調査は古墳時代前期の集落と旧河道（川跡）などが検出されました。これまでの調査成果と合わせると、この地域には縄文時代晩期頃に初めて集落が営まれ、その後何回かの盛衰を繰り返し、古墳時代前期頃にその盛期がピークに達したことがわかりました。旧河道も古墳時代前期頃には一部が湿地化（湿地にはヨシが群棲していたようです。）したようですが、いぜん川としての機能は保っていたと考えられます。旧河道からは多量の遺物が出土しました。特に木製品は腐りやすく残りにくいため、今回のような大量の発見は当時の生活の様子を知るうえで大きな成果といえるでしょう。

下長遺跡全景写真（約1/400）

（小島）





けんちく ぶざい
建築部材



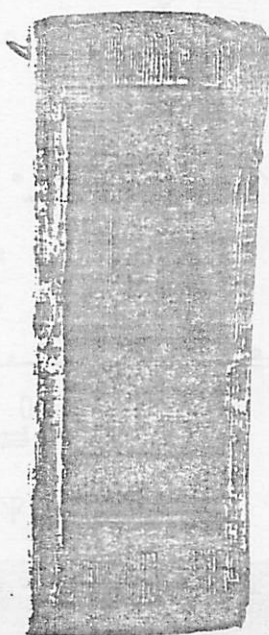
矢じり



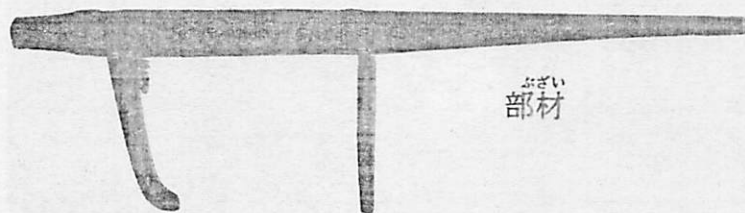
もくすい
木錘（おもり）



そう
槽（容器）



箱



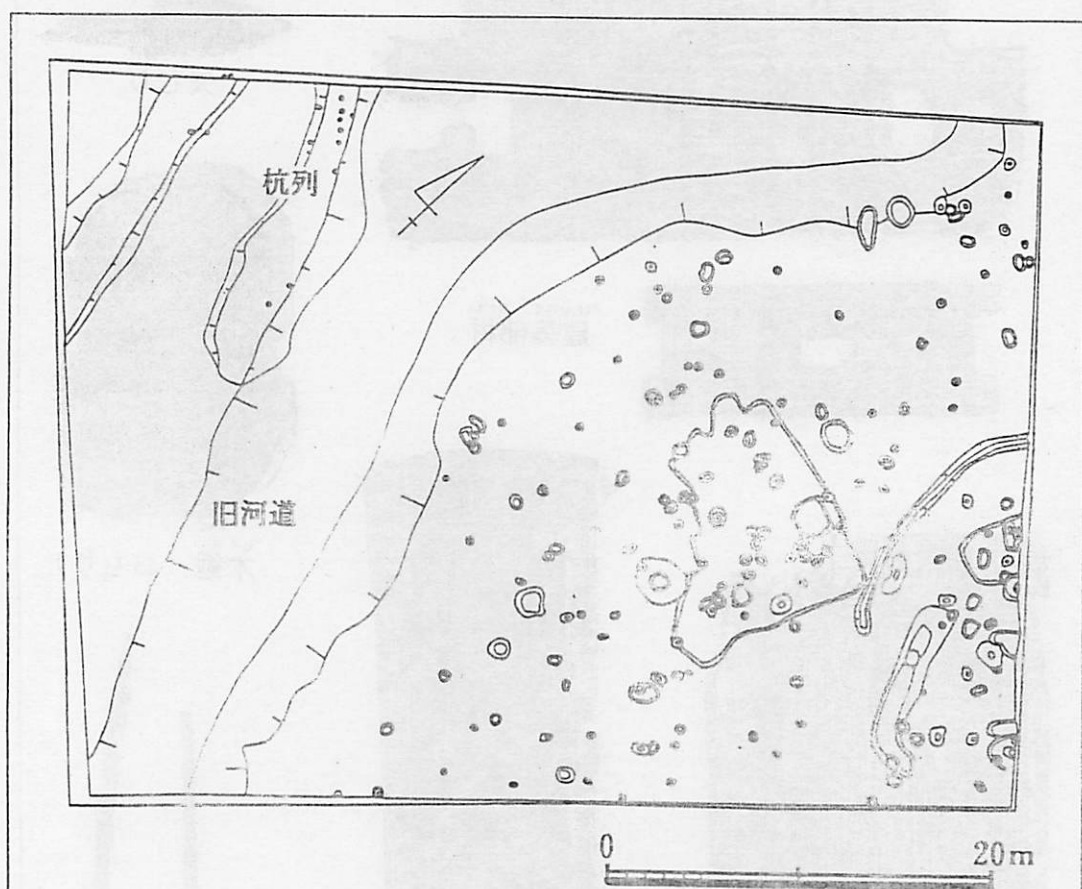
ぶざい
部材



かい
權

弓

下長遺跡出土木製品写真



下長遺跡遺構平面図

☆ 調査中 ☆

5. 酒寺遺跡

7月から操縦

田町で土地区画

整理に先立ち、

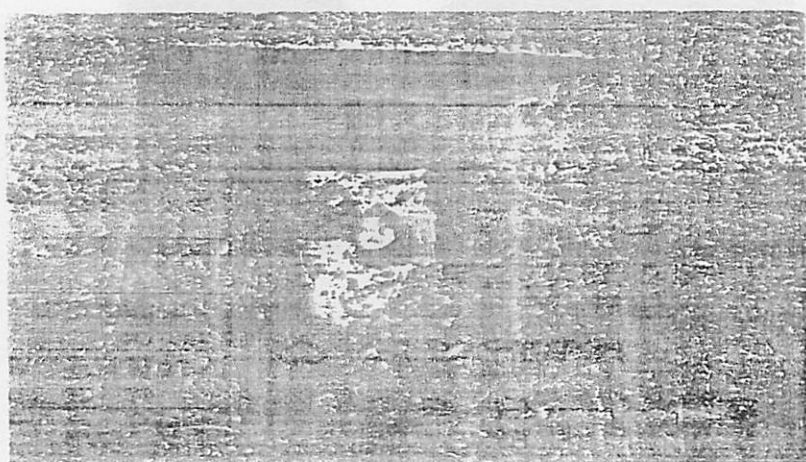
発掘調査を進め

ています。調査

対象面積12.000

m²のうち1.000m²

が終了したとこ



酒寺遺跡方形周溝墓土器出土状況

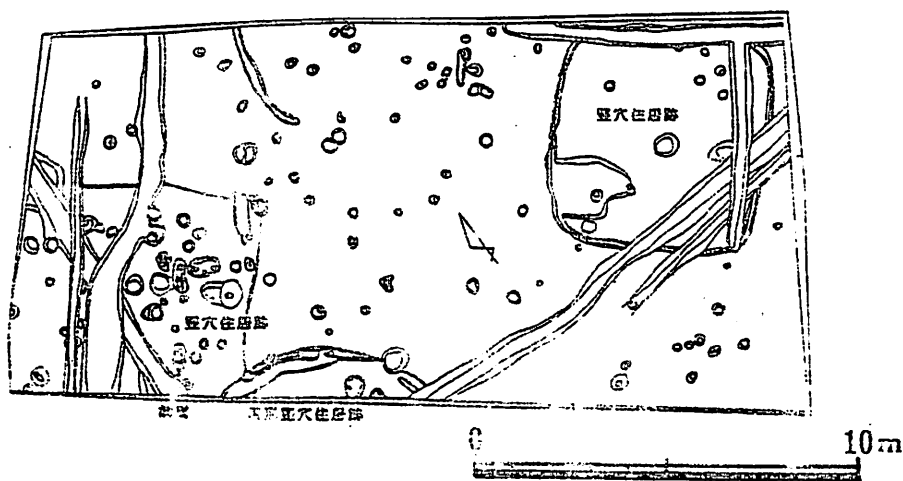
ろです。これまででに古墳時代前期の井戸、古墳時代後期の掘立柱建物と溝など見つかりています。井戸は直径1 m、深さ1.5 mで、丸太をくりぬいた井戸枠がわずかに残っていました。このほか、弥生時代の方形周溝墓も見つかりています。今後、調査が進めばさらに全体の様子がわかってくるものと期待されます。調査は来年の3月まで続きます。

(伴 野)

6. 古高遺跡－B地点－

6月18日から今宿町の西端、字口津田において、宅地造成に伴う発掘調査を実施しています。約3,500㎡の調査面積のうち、これまでに約半分を終えています。これまでに弥生時代後期の竪穴住居3棟と溝1条、古墳時代前期の溝2条、平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物1棟と多数の柱穴を検出しています。竪穴住居は円形のものが1棟、方形のものが2棟あり、このうち円形住居からよく使い込まれた砥石が出土しました。掘立柱建物は3間×2間以上の規模で柱穴から土釜や黒色土器碗などがみつかりています。調査は9月末まで続けられる予定ですので、次号にはさらに詳しい結果がお伝えできると思います。

(畑 本)

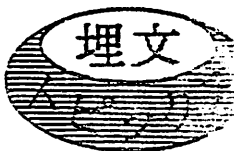
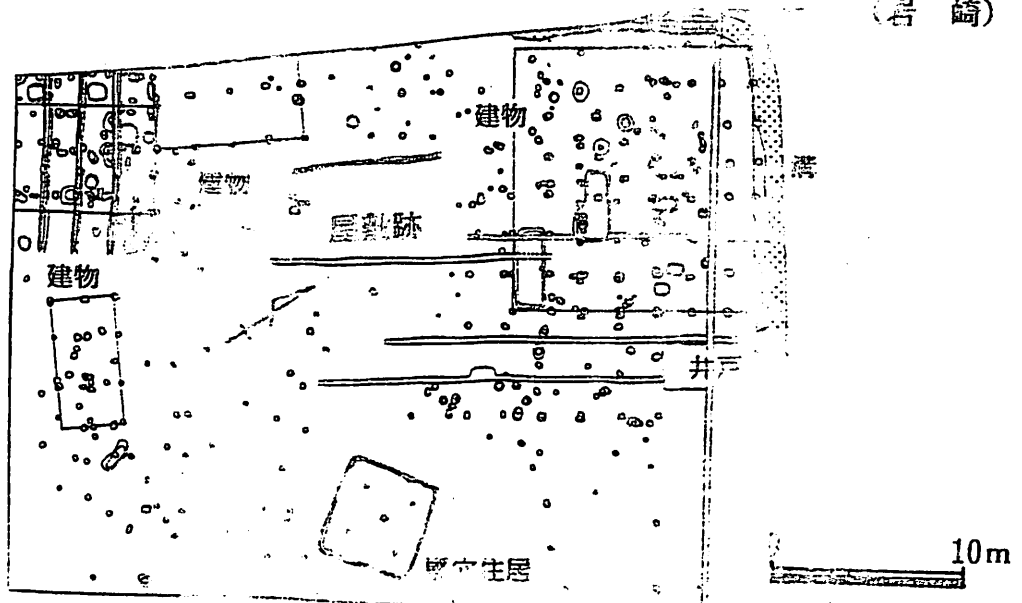


古高遺跡－B地点－遺構平面図

7. 益須寺遺跡

この調査は小学校の新設工事に先立って、6月中旬から9月末までの予定で行っています。調査場所は岡、立入町集落間の水田地で益須寺遺跡の東辺にあたります。これまでの調査では古墳時代前期の竪穴住居と鎌倉時代の掘立柱建物、井戸、溝が見つかりました。竪穴住居は一辺6.9mの方形住居で、床面から^{うゑと}炉跡と柱穴が検出されました。鎌倉時代の^{やしきあと}屋敷跡は幅1m前後の溝に囲まれており、その内側には複数の掘立柱建物と井戸が築かれていたようです。掘立柱建物のうち7間×7間と大型の建物は^{おもや}母屋とみられます。このすぐ北側にもこれに似た屋敷跡が見つかるなど、鎌倉時代にこの地にあった集落の姿が徐々に明らかになってきています。

(岩 崎)



益須寺遺跡遺構平面図

発掘調査体験学習会が開かれる

8月24日(土)に今宿町の益須寺遺跡において、埋文センター主催の発掘調査体験学習会が開かれました。参加者36名は移植ごてを片手に柱穴の発掘に挑戦しました。土の中から皿や碗の破片が見つかるたびにあちこちから歓声が上がっていたのが印象的でした。